



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

| | |
|------------|---|
| Title | 2017 (平成29) 年度 学会巡検報告 : 千葉県浦安市における新旧の街の違いと3.11液状化の被害跡と課題を探る (学会記事) (fulltext) |
| Author(s) | 小池,直之 |
| Citation | 学芸地理(74): 52-53 |
| Issue Date | 2018-12-26 |
| URL | http://hdl.handle.net/2309/151321 |
| Publisher | 東京学芸大学地理学会 |
| Rights | |

2017 (平成 29) 年度 学会巡検報告

千葉県浦安市における新旧の街の違いと 3.11 液状化の被害跡と課題を探る

実施日：2017年10月28日 (土)

案内者：関信夫先生 (千葉県立長生高等学校教諭)

コース：浦安魚市場→蒸気河岸 (釣り宿前堤防) →境川沿い→旧役場跡→新橋→清瀧神社→
堀江フラワー通り→旧宇田川家住宅→旧大塚家住宅→堤防跡地→高洲中央公園→
高洲海浜公園

2017年度の学会巡検は、千葉県地理学会との合同で千葉県浦安市にて行われた。県立浦安高等学校での勤務歴のある関信夫先生の案内で新旧の街の違いと震災の跡を観察した。

千葉県浦安市は、東京湾の最奥部に位置する。「浦安」という地名は、当時漁村であった当地の漁浦の安泰を祈願する意味で名付けられたといわれる (浦安市ホームページより)。浦安市は1969年の東西線の開通により都心まで約20分の距離となり、住宅地としての人気も高い。現在は、旧江戸川河口に建設されたディズニーリゾートの街として知られる。浦安市は、1889年の市制・町村制の成立以降、一度も合併をしていない自治体である。しかし、面積は市制・町村制施行時の4.4km²から現在の16.98km²と約4倍に拡大した。これは海面埋め立てによる拡大であり、市域の4分の3が埋立地である。こうした埋め立てにともない「新しい街」が浦安市に形成された。

まず、午前中は古い街である「元町」を観察した。ここで関先生から巡検参加者に「元町」にあって「新町」にないものは？という問いが出された。参加者はその問いの答えを探しながらコースを進んでいく。最初に、漁師町であったころの面影を残す浦安魚市場を訪れた。千葉

で獲れる魚だけでなく全国各地から食材が集められていた。市場には食堂もあり多くの客で賑わっていた。続いて、蒸気河岸まで移動し、境川沿いを歩く。蒸気河岸とは、蒸気船の発着所であったことに由来する。蒸気河岸には船宿が3軒あり、そのうちの1軒が山本周五郎の「青べか物語」で登場する船宿「千本」のモデルとなった。江戸川や東京湾で漁業が行われていた時は、境川にも多くの漁船が止まっていたそうだが、現在、漁船はみられなかった (写真1)。関先生によると、プレジャーボートの係留はみられるそうだ。

次に、境川にかかる新橋まで移動し、巡検の最初に出された問いの答えを探す。答えは橋の北東部にある銭湯と南側に位置する神社であっ



写真1 境川

た。漁師町であった時の漁師用の施設や古くからの歴史を表象する施設が「旧い街」にのみ立地していた。清瀧神社で富士塚を確認した後、漁師町当時の中心商店街であったフラワー通りへ。通りに位置するかつての呉服屋の宇田川家住宅と大塚家住宅を訪れた。大塚家住宅では、敷地に貝殻を敷いて整地をしていたり、水害から逃れるための工夫が家屋に残されていたりと浦安の住居や当時の人々の暮らしぶりをうかがうことができた。通り沿いには銭湯もあり、往時のすがたを想像させた。新橋の近くには、1974年まで町役場も置かれおり、かつての中心地であったことがわかる。

午後からは、浦安駅前からバスに乗り、「新町」へ移動した。バスを降りて高洲中央公園へ向かう途中、かつての堤防跡を観察した(写真2)。埋め立て地との境界線が明瞭に残る景観に一同感動し、写真撮影をしていた。また、「新町」側には、新たに建設された高層マンション群もみえ、「元町」と「新町」との景観の違いに驚いた。30分程歩き午後の一番目の見学地である高洲中央公園に到着した。ここでは、震災の痕跡を見学した。関先生の話では、「新町」は震災後の液状化の被害がひどく、電柱なども傾いていたようだ。今ではほとんど修復されていた。公園内には、液状化の被害跡である浮き出たマンホールが残されていた(写真3)。相当

な重量であろうマンホールが飛び出ているすがたは、この地域の被害の大きさを想像させた。マンホールの前には「震災の記憶」というプレートが設置されており、当時の被害の状況や復興までの様子が記されていた。依然、復興の道を歩む多くの地域のことを思い、震災の被害の大きさを再確認した。

続いて、高洲海浜公園を訪れた。展望台があり、東京湾を一望できるということであったが、巡検当日は天気が悪く、うっすらと幕張新都心が確認できる程度であった。東京湾の眺望はまたの機会に持ち越しとなった。高洲海浜公園の周辺はまだ空き地が多く、今後、整備が進んでいくのだろう。天気の関係もあり、最終目的地である浦安南高等学校には行かず、新浦安駅までバスで戻り解散となった。

今年度の学会巡検では、地域を街の景観や歴史などの文化的な側面からみてきた。浦安市という多くの人が「ディズニールゾートの街」と認識しているが、「旧い街」としての浦安市や住宅地としての浦安市など様々な側面をもつ地域であるとわかった。多くの人との関わりもあり、地理学のおもしろさを改めて認識させてくれた。僭越ながら、この場を借りて、今回の巡検を企画・ご案内下さった関信夫先生に感謝の意を表したい。

(小池直之)



写真2 堤防跡



写真3 液状化被害